

4月25日正午必着

明石春浦先生書



野寺分晴樹
春深無客到

山亭過晚霞
一路落松花

(施閨章)

野寺には木々が日にくつきりと映え、山亭には夕暮れのもやがただよう。このあたり、春色深く、たずねる人もなく、路行けば松花が静かに落ちるのみである。松花は松黄ともいう。

明石幸子書

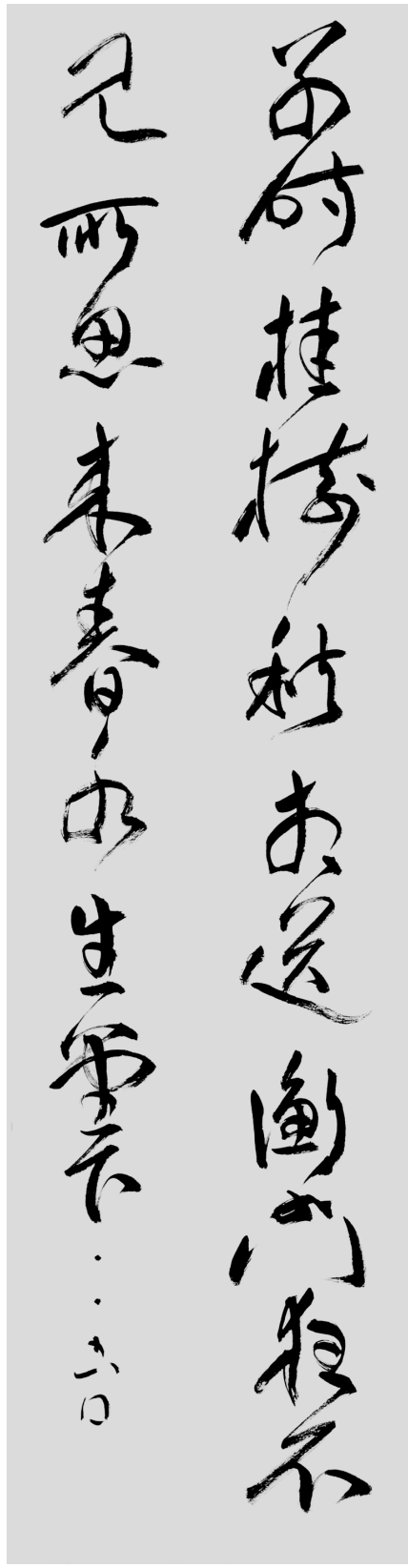


高砂の尾の上の桜 咲きにけり 外山の霞 立たずもあらなむ

(前中納言匡房)

遠くの高い山の峰には、桜が美しく咲いたことだよ。心ゆくまで、この風景を眺めていたいと思うから、近い山の春霞よ、どうか立ちこめないでほしい。

窪田華岳先生書



別時桂樹秋 相送衡門夜 (朱彝尊)
かつて、朱山人と別れた時は桂の咲く秋の季節で、夜、かぶき門まで見送った。
今日あたりはまた来てくれるのではないかと心待ちにしているがその気配はない。
ただ春水の生息きが書斎の近くで生じているだけである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

春光都在五雲中 (文徵明)

春光都在五雲の中に在り

雲のたなびくあたりは、今や春景色である。

春曉

春眠不覺曉 處處聞啼鳥
夜來風雨聲 花落知多少 (孟浩然)

春眠 曉を覚えす 処こ啼鳥を聞く
夜來風雨の声 花落つること知る多少ぞ

春だ。つい朝寝坊していると、あちこちで小鳥がさえずる。そうだ、昨夜は吹き降りだったな。庭の花もうんと散ってしまったかしら。

晚泊潯陽望廬峯 (孟浩然)

晚に潯陽に泊して、廬峰を望む 孟浩然

掛席幾千里 名山都未逢

席を掛く 幾千里 名山 都べて未だ逢わず

泊舟潯陽郭 始見香廬峯

舟を潯陽の郭に泊し 始めて香廬峰を見る

嘗讀遠公傳 永懷塵外蹤

嘗て遠公の伝を読み 永く塵外の蹤を懐う

東林精舍近 日暮坐聞鐘

東林の精舎近く 日暮 坐ろに鐘を聞く

玉蘭の空すがすがし 光發す 一朝にしてひらき満ちたる (北原 白秋)

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

孫 復
去 送
王

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

4月25日正午必着

行書

送韓司直
復送王孫去

隸書

送復
送王孫去

明石春浦先生書

草書

送王孫去
送王孫去

行草書

送王孫去
送王孫去

呉の地を遊歴し 更に越の地方に行き ただ風まかせ 波まかせに往来する
 までも貴方をお送りするのだが 春の草の茂るのをどうすればよいのでしよう
 山の頂は明るく まだ雪が残り 潮は満ちて いっぱいに夕陽の日ざし
 いまものこる季子の祠廟 舟をとめて ちょっと立ち寄られるよう

送韓司直 皇甫冉

游呉還適越

來往任風波

復送王孫去

其如芳草何

山明殘雪在

潮滿夕陽多

季子留遺廟

停舟試一過

韓司直を送る

呉に遊び 還た越に適き

來往 風波に任す

復た王孫を送り去る

其れ芳草を如何せん

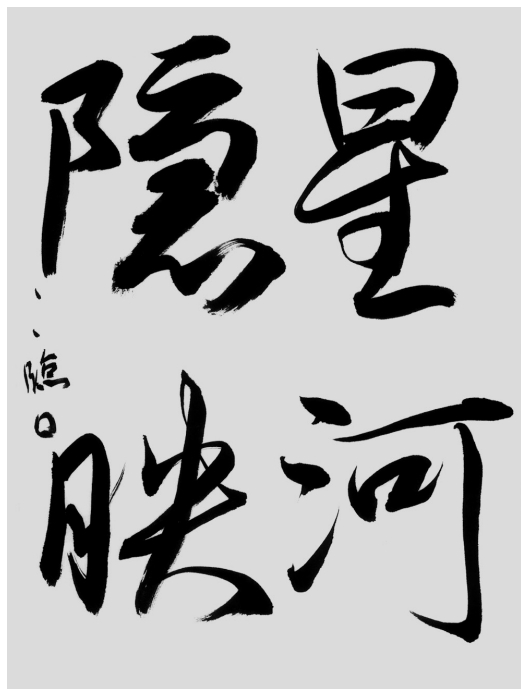
山明らかにして 残雪在り

潮満ちて 夕陽多し

季子 遺廟を留む

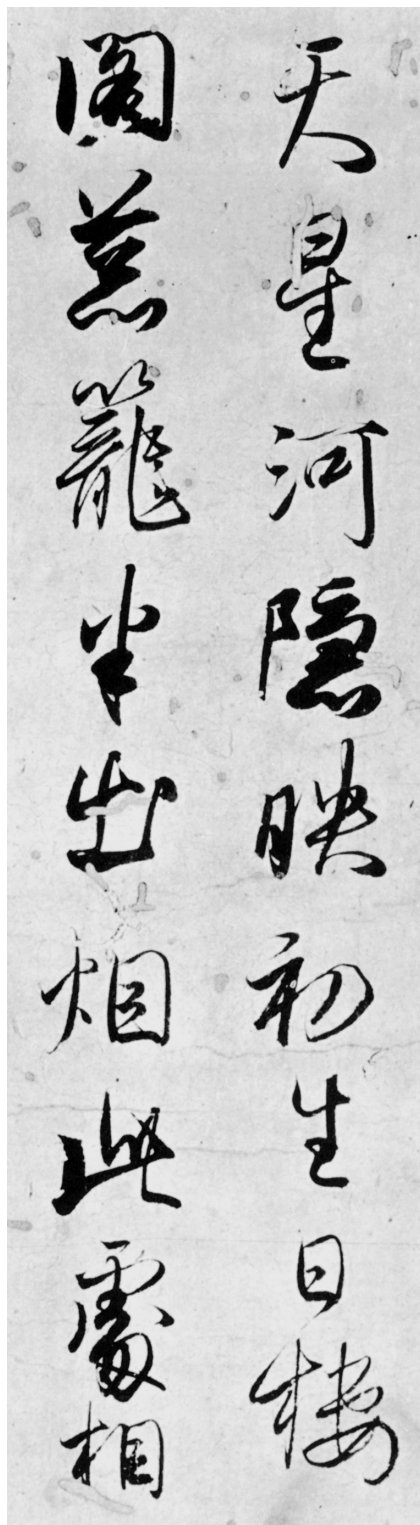
舟を停めて 試みに一たび過らんことを

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より



星河隱映

雨宮春聲先生臨書



(天) 星河隱映初生日 樓閣窓籠半出烟 此處相(逢)
 星河隱映して初めて日を生じ、樓閣窓籠として半ば烟を出す。此の処に相(逢いて)

平安 藤原行成・白樂天詩卷

平安時代は、貴族の文化であり、従来の唐風文化から離れて国風文化へと移行していった時代でもあった。書の世界でも「三筆」の時代から「三蹟」(小野道風、藤原佐理、藤原行成)の時代へと唐風の書が優美典雅な和様書道へと変化していった。藤原行成の父は一条摂政原伊尹の子義孝、母は醍醐源氏・中納言源保光女、生まれてすぐ伊尹の養子となるが、伊尹がその年に没し、父の義孝も行成三歳の時に没、以後は母と外祖父保光に育てられる。若い頃はかなり不遇で、出家も考えるほどだった。源俊賢が藏人頭の後任に推挙してくれたことにより運が開け、出世するようになる。

書においては、優れた「手書き」で、世尊寺流の開祖として特別に尊重され、行成の書跡は「権跡」と呼ばれるようになる。この白樂天詩卷は、中国・唐時代中期の詩人、白居易(白樂天 七七二〜八四六)の詩文集『白氏文集』から四篇の詩を揮毫したもので、百八十二行より成る。紙枚は十一紙、毎行十三四字を前後する程度で、文字の大小も甚だしい変化を示していない。しかし、その一字一字のすがたはさすがに優雅端麗をつくり、平安時代の典型的な筆蹟となすべきものである。(春龍)

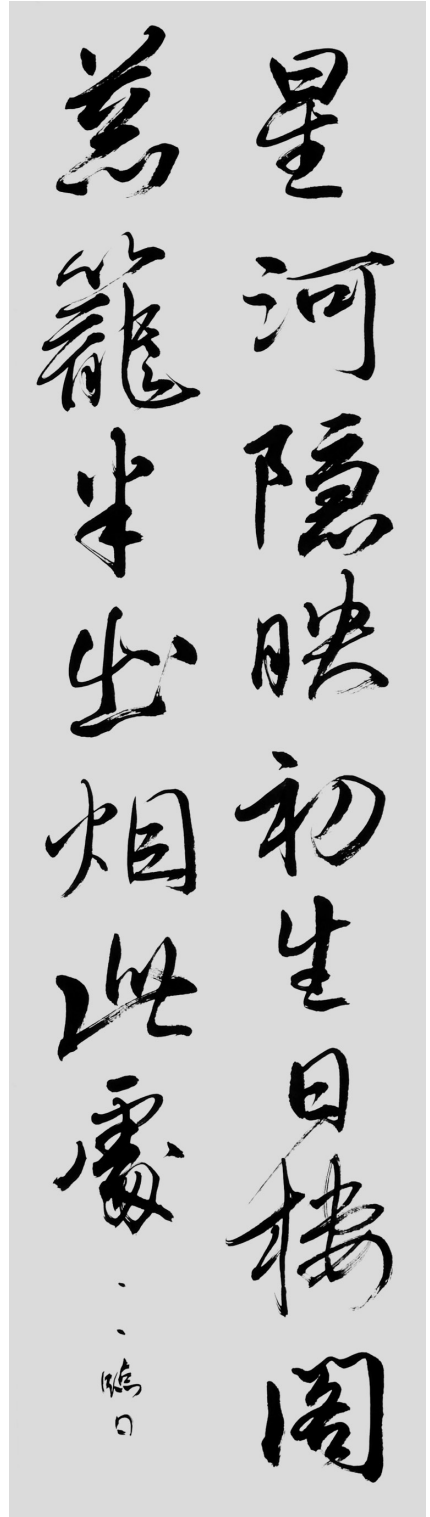


清吟夜煮茶 (郭昇)

夜には静かに詩を吟じつつ茶をたてる。

△做書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



星河隱映初生日 樓閣惹籠半出烟 此處



しょう
紹

かい
介

中学一年

雨宮春聲先生書



けん
建

ちく
築

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



りょう こう
良 好

小学五年

榎戸春龍先生書



じゅん ふう
順 風

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着



よう

もう

小学三年

藤田幸春先生書



と

ち

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

い し 小学一年・幼年



森戸春濤書

じん りき 人 力 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

公になつた気分です	まるでマンガの主人
-----------	-----------

小学五年

植物は根から養分	をすい上げています
----------	-----------

小学六年

良い本を読むことは	心の成長へつながる
-----------	-----------

中学

野山は花の香りと緑	の模様の色どられた
-----------	-----------

一般(級位)

鳥の谷より出づる声は	春来ることを誰か知らまし
------------	--------------

一般(段位)

鶯の谷より出づる声なくば春来ることを誰か知らまし(大江千里)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

た	め
け	だ
の	か
こ	
	か
こ	え
い	る

幼年

が	お
	た
二	ま
ひ	じ
き	や
い	く
る	し

小学一年

が	さ
	く
池	ら
に	の
お	花
ち	び
た	ら

小学二年

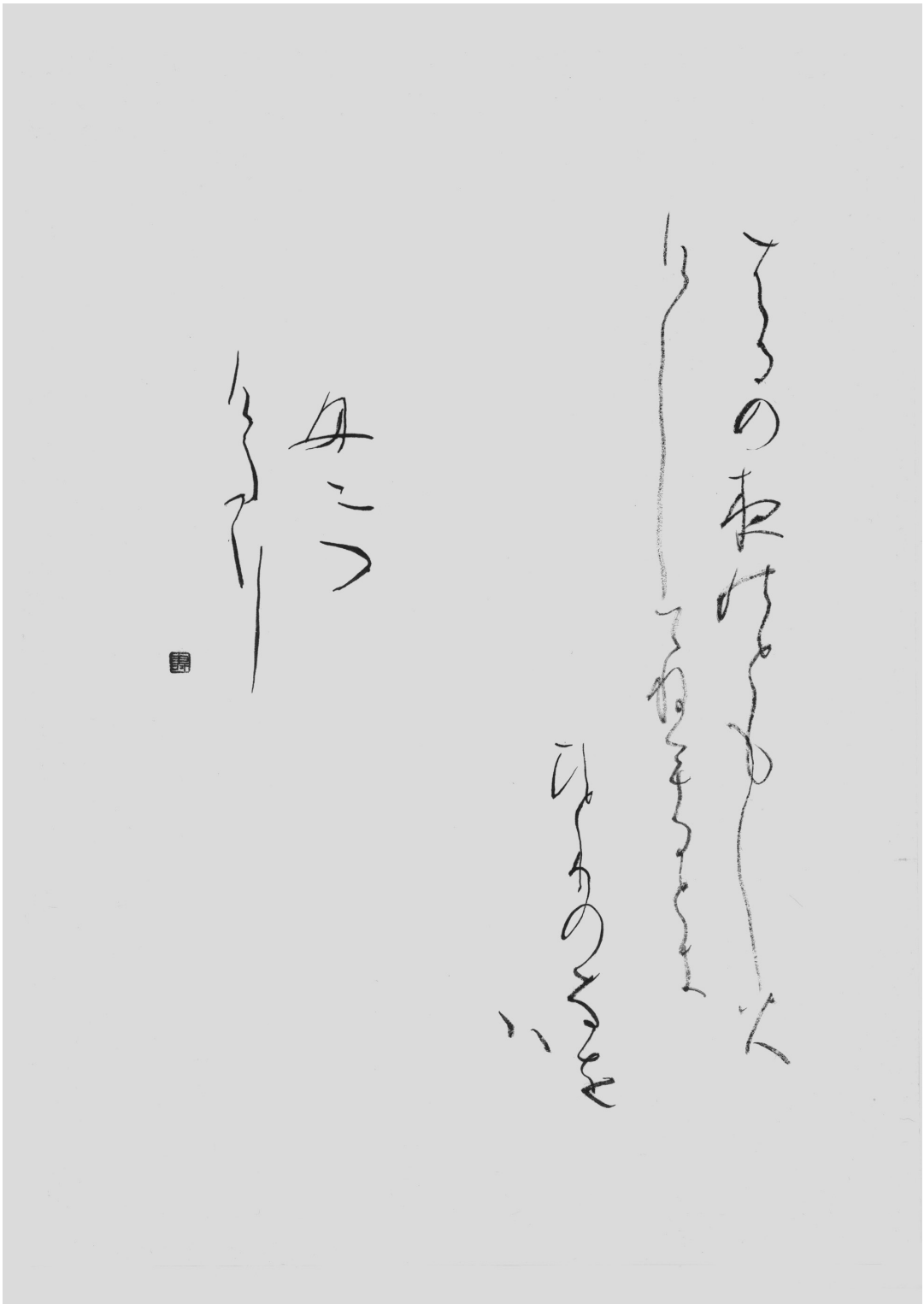
の	て
名	い
ま	ね
え	い
を	に
か	自
く	分

小学三年

ま	こ
が	の
る	先
と	の
魚	四
や	つ
で	角
す	を

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

者
 はるの夜のもし火けしてねむるときひとりのをば母につげたり (善磨)